

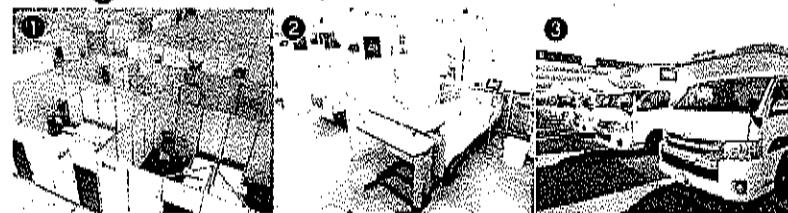
高齢者への拡大 想定外 自宅療養選ぶ若者

大阪の1000床 利用1日最大70人

第6波の臨時医療施設の利用状況

施設の種別	概要	開設先	床数	受け入れ数 (ピーク時)
大阪府 ①	大規模医療・ 療養センター	軽症・無症状患者や 酸素投与の必要がない 中等症患者の受け入れ	国際展示場 (大阪市) 中等症患者用 200床は休止	1000 3月23日から 70
医療・医療提供 ステーション ②	酸素投与や抗体 カクテル療法を実施、 発熱外来患者も 受け付け	旧病院 (北区) 築地市場跡地 (中央区) 都施設 (渋谷区) 旧小学校(練馬区)	150 191 84 140 35	31 20 20 26 13
医療機能強化型 宿泊施設 ③	宿泊療養施設に酸素 投与や抗体カクテル 療法ができる機能を追加	ホテル (港区)	50	46
高齢者等 医療支援型施設	高齢者施設での感染者 や入院後症状が安定 した高齢者の転院先	旧東京女子医大 の施設 (荒川区)	60	57
感染拡大時 宿泊施設 ④	無症状者向けで軽い 運動やテレワークの スペースあり	都施設(千代田区) 空き地(立川市)	350 226	116 34

主な臨時医療施設



新型コロナウイルス対応で、大阪府が1月末に開設した臨時の大規模医療施設の利用が進んでいない。昨夏の第5波の経験から病床に加えて宿泊施設も適切と想定して整備したが、第6波でのニーズとそれが生じたとみられる。

「大阪コロナ大規模医療・療養センター」(最大1千床)の利用は第6波の最も多い日で70人(3月10日)にとどまった。同センターは吉村洋文知事が昨夏、機縛を打ち出した。大阪市の国際展示場「インテックス大阪」に約80億円をかけて整備した。

「大阪コロナ大規模医療・療養センター」は、無症状・軽症患者と、酸素投与の必要がない「中等症」の患者で、自立した生活を送れる人。若年の患者の利用を見込み、開設当初は原則40歳未満とした。第6波で利用が伸び悩んだ要因は主に二つあるとみられる。

高齢者施設でクラスター(感染者集団)が発生するなど、高齢者にも感染が拡大したのが第6波の特徴だ。吉村知事は3月14日、「大規模センターはもともとある程度自立して生活できる方が前提になっている。介護が必要な方や持病を持っている方を受け入れるのは簡単ではない」と記者団に語った。

臨時医療施設 ミスマッチ

つかず、特にワクチンが行き届いていなかつた現状世代への対応が課題となつた。センターは宿泊療養施設も不足することを想定し、「一時避難施設」との位置づけで開設した。だが、第6波で宿泊療養施設の利用率は最高でも3割ほどだった。センターが当初想定されたまゝ宿泊療養施設があらわれた患者の受け皿となることはなかった。

位置づけで開設したが、第6波で宿泊療養施設の利用率は最高でも3割弱。センターが当初想定されただまゝ宿泊療養施設があらわれた患者の受け皿となることはなかった。

都は「抗体カクテル療法」を要げるための「酸素吸入」が必要とする高齢者への感染拡大に対する高齢者への感染拡大は、想定外だった。府は運用できず、介護が必要とする高齢者への感染拡大と記載者団に語った。

府はどうして、センターを

利用できず、介護が必要とする高齢者への感染拡大と記載者団に語った。府は運用の途中から、高齢者のさらなる感染を防ぐため、高齢者と同居する感染者に生活できる方が前提になつた。吉村知事は3月14日、「大規模センターはもともとある程度自立して生活できる方が前提になつていている。介護が必要な方や持病を持っている方を受け入れるのは簡単ではない」と記者団に語った。

さりとて、第6波で重症化リスクの低い若年層では、宿泊よりも自宅での療養を選んだ人が少なくなかつたとみられる。

デルタ株が猛威を振るつて第5波では、急増した感染者数に保健所業務が追い

さりとて、第6波で重症化リスクの低い若年層では、宿泊よりも自宅での療養を選んだ人が少なくなかつたとみられる。

デルタ株が猛威を振るつて第5波では、急増した感染者数に保健所業務が追い

さりとて、第6波で重症化リスクの低い若年層では、宿泊よりも自宅での療養を選んだ人が少なくなかつたとみられる。

デルタ株が猛威を振るつて第5波では、急増した感染者数に保健所業務が追い

さりとて、第6波で重症化リスクの低い若年層では、宿泊よりも自宅での療養を選んだ人が少なくなかつたとみられる。

デルタ株が猛威を振るつて第5波では、急増した感染者数に保健所業務が追い

さりとて、第6波で重症化リスクの低い若年層では、宿泊よりも自宅での療養を選んだ人が少なくなかつたとみられる。

都の担当者は「医療施設

立地で利用率に差

東京

東京都に設けられた臨時の医療・療養施設の利用率に大きな差が生じている。都が2月に多摩モノレール「立飛駅」(立川市)近くに設けた臨時療養施設は、感染した人が同居家族への感染を防ぐために入れる想定で250床のほか、

東京都に設けられた臨時の医療・療養施設の利用率に大きな差が生じている。都が2月に多摩モノレール「立飛駅」(立川市)近くに設けた臨時療養施設は、感染した人が同居家族への感染を防ぐために入れる想定で250床のほか、

酸素投与など治療をできる20床も用意したが、入所者はピーク時でも45人(収容施設は最大時34人)にとどまつた。

ネットは立地だったと都はみる。同じ目的の療養施設は都心の東京・有楽町にあり、350床のうちピーク時は8分の1程度は利用された。都の担当者は

酸素投与など治療をできる20床も用意したが、入所者はピーク時でも45人(収容施設は最大時34人)にとどまつた。

ネットは立地だったと都はみる。同じ目的の療養施設は都心の東京・有楽町にあり、350床のうちピーク時は8分の1程度は利用された。都の担当者は

酸素投与など治療をできる20床も用意したが、入所者はピーク時でも45人(収容施設は最大時34人)にとどまつた。

ネットは立地だったと都はみる。同じ目的の療養施設は都心の東京・有楽町にあり、350床のうちピーク時は8分の1程度は利用された。都の担当者は

酸素投与など治療をできる20床も用意したが、入所者はピーク時でも45人(収容施設は最大時34人)にとどまつた。

ネットは立地だったと都はみる。同じ目的の療養施設は都心の東京・有楽町にあり、350床のうちピーク時は8分の1程度は利用された。都の担当者は

酸素投与など治療をできる20床も用意したが、入所者はピーク時でも45人(収容施設は最大時34人)にとどまつた。

ネットは立地だったと都はみる。同じ目的の療養施設は都心の東京・有楽町にあり、350床のうちピーク時は8分の1程度は利用された。都の担当者は

酸素投与など治療をできる20床も用意したが、入所者はピーク時でも45人(収容施設は最大時34人)にとどまつた。

ネットは立地だったと都はみる。同じ目的の療養施設は都心の東京・有楽町にあり、350床のうちピーク時は8分の1程度は利用された。都の担当者は